

## 高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画PT修復班（絵画担当）

## ○高松塚古墳壁画

## 1) 壁画の状態確認

令和元年度までの修理において修理材料を追加した部分、あるいはクリーニング作業（紫外線照射、酵素処置など）を施した部分を中心に、修理後の状況について定期的に確認を行っている。

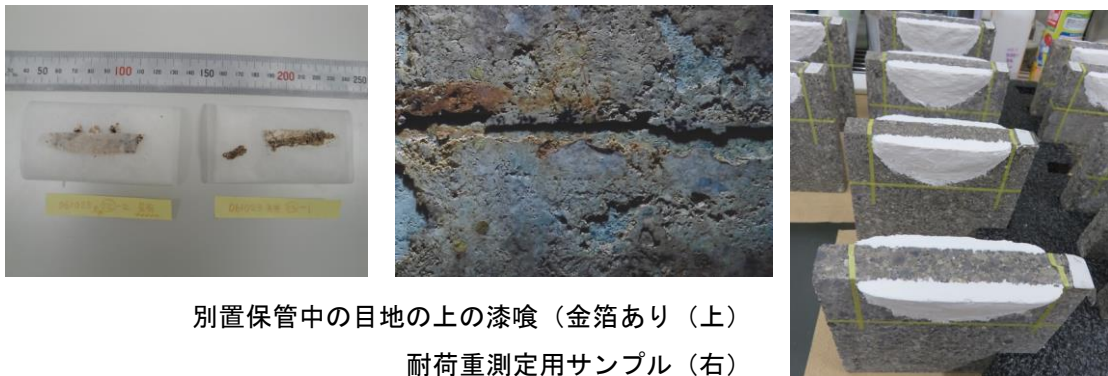
本年度は8月、12月、3月に実施した。12月、3月は目視観察に加えて測色も行った結果、色味の大きな変化はなかった。

## 2) 壁画の集中メンテナンス

漆喰と顔料の状態を確認し、必要に応じて処置を行っている。主に、メチルセルロースや膠を用いた箇所、酵素クリーニング箇所、顔料の安定状態などを中心に確認を行っている。

本年度は、5月、8月、10月、2月に実施した。

## 3) 目地の上の漆喰（金箔あり）の保存管理方法の検討



別置保管中の目地の上の漆喰（金箔あり）（上）

耐荷重測定用サンプル（右）

高松塚古墳壁画の天井星宿図について、石室解体時に目地にまたがった壁画漆喰については現在、別置して保存管理を行っている。これらの将来的な保存管理方法を検討している。本年度は、キトラ古墳壁画修理に用いた充填材を参考に、モデリング材料と方法を検討した。また、凝灰岩にモデリングして上から荷重をかけて破壊する限界重量測定用試料の準備作業を行った。形状や表面の保護紙の有無により9種類の試料を作成しており、試料が揃い次第測定を始める。

## ○キトラ古墳壁画

### 1) 壁画の集中メンテナンス

本年度は、6月、8月、11月、3月に実施した。

現在大きな問題は生じていないが、小さな剥離は確認されており、メンテナンス時に処置を行った。

また、集中メンテナンス以外の月2回の点検でも表面の埃などが確認されており、蓋などによる壁画表面の保護方法の検討が必要である。

### 2) 壁画の適切な管理のために必要な手法の検討（蓋など）

蓋については、取り扱いや形状の確認のため、本年度はアルミニウム製と木製の二種類の試作品を製作した。また、表面に用いる非帯電性シートを選択や取り扱いなどについて修理技術者と協議し、次年度以降に具体的な設計を進める。